

骨粗鬆症の診断と治療法

整形外科 藤井 亮太

骨粗鬆症は、骨の強度が低下し、骨折のリスクが大きくなる病気です。

骨の強度には、骨の密度が7割、骨の質が3割くらい関係していると言われます。骨密度は検査も普及し、一般に知られていますが、骨の質に関してはご存じない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

骨の質は、家族を含めて過去に骨折したことがあるかどうか、飲酒や喫煙、ステロイド剤の服用、運動の習慣など様々な要素が関係するため、骨密度だけでなくそれらも踏まえながら、骨粗鬆症の治療を行うことが大切です。

最新の調査によれば、我が国の40歳以上の骨粗鬆症患者は1,280万人(男性300万人、女性980万人)と推計されています。

骨粗鬆症を原因とする骨折で多いのは、だいたいこつ大腿骨近位部骨折、きん い ぶ こっせつ脊椎圧迫骨折、せきついあっぱくこっせつ橈骨遠位端骨折の3つです。

大腿骨近位部骨折とは、大腿骨の股関節に近い部分の骨折で、痛みにより立つことや歩くことが困難になります。脊椎圧迫骨折は、骨粗鬆症でも

ろくなった背骨が押しつぶされるように折れるもので、寝返りを打つ際や起き上がる時などに痛みを伴います。橈骨遠位端骨折とは、転んで手をついた際などに、尺骨と一対で前腕を構成する橈骨の手首に最も近い部分の骨折です。

3つのうち、特に大腿骨近位部骨折と脊椎圧迫骨折の場合は、日常の動作がかなり不自由となるため、死亡率の上昇につながるとの報告もあります。したがって、骨粗鬆症を早期に発見し、適切な治療を行い、骨折を未然に防ぐことが重要です。

治療は患者さんをご相談しながら、一人ひとりの骨の強度や生活習慣などに応じて、内服薬や注射など幅広い選択肢から決定します。

特に最近では、半年に1回の注射という治療法も登場し、頻繁に通院することが難しい方でも治療が可能になりました。予防的な意味合いの大きい治療ですが、すでに骨折してお困りの方に対しても治療期間を短縮する効果があることから、幅広く健康を支える治療になっています。

骨粗鬆症が心配な方、膝や股関節、背骨が痛くて困っている方はぜひ当院へご相談ください。